



# 千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936番  
(公) 043 (222) 7207番

92.12.17 No. 3710

## 新たな闘いの先頭に立つ千葉転支部

### 12/8 第16回大会開催

十二月八日、千葉市民会館において、千葉転支部第十六回定期大会が開催された。冒頭挨拶にたった五十嵐支部長は「分割・民営化から五年、かつて言われたことは全ての面において破産している。この点をもう一度明らかにさせなければならぬ。今の支社は、出発赤で行け」とか、列車整理もできない、事故を隠蔽するなど、デタラメな対応をしながら、動乗勤の改善をはじめ、次々と合理化を進めている。新たな闘いに全力で立ち上がる」と提起。続いて議案が提案され、活発な討論のうえ、闘う方針が確立された。

もろくがまろくじやない

#### 【出された主な意見】

- 訓練や交番変更について、未だいやがらせ的に指定以外はだめだ、という対応が行なわれている。冠婚葬祭以外は「社会通念上」の理由にならないという言い方だ。
- 空港第二ビルの開業について、教育も訓練も行なわれていない。また、疑問点について助役も答えられない。しかも、始めて行くのに指導員も乗っていない。こんなことで列車を走らせることができるのか？
- 他労組の組合員が、福俵の駅で行きすぎ、踏切を踏んだ。戻って出発したときは踏切が上がったままで警報が鳴動していた。しかも通過した後は下りっぱなしになった。にもかかわらず当局は運転士を擁護している。動労千葉の組合員は、同じ駅の行きすぎで乗務停止にされている。明らかな組合差別だ。
- 大昔踏切の事故以降、皆不安な気持ちでいる。当局が何の対応もしない以上、安全運転闘争にふみきってほしい。
- 西日本のストは、一体どういうことなのか、東日本でのJR総連の動向は、どうなっているのか。

#### ■ 九二年度新役員

支部長	五十嵐 和夫
副支部長	山口 裕明
書記長	大野 茂
執行委員	久保庭 幸平 多田 勝美 小倉 培次 古川 政史 影山 和夫 藤岡 秀夫 宮崎 芳久 花崎 栄一 中村 一

### 12/7 京葉支部第5回定期大会

## 新時代の創造へ 山田新支部長が起る？

京葉支部第五回定期大会は、十二月七日千葉市「八剣伝」において開催された。冒頭あいさつに起った山田書記長は、「京葉支部は、運転と営業を合わせ持っている意味からも動労千葉の象徴的支部と言える。「聖域化」と「塩づけ」の打開こそわれわれの使命であり、課題であり、「JR体制」に最大の打撃を与える道だ。一人ひとりがこの点を肝に命じ闘い抜こう」と力強い提起を行った。執行部より、一般経過報告から予算(案)までの提起後、質疑応答に入り……

- ①、十一月一日の売店廃止に伴う通勤距離を無視した配転によって、職場に二泊を余儀なくされるなどの生活破壊は絶対に許せないものだ。是正を強く求める運動強化を!
- ②、京葉線ではこの間、信号機故障などの事故が発生しているが、事故後時間の経過と共に遅れが拡がるなどということが相次いでいる。指令の



対応が悪いとしか言いようがない! その度に駅員に苦情が殺到している。等々が出された。

その後、新支部長に山田護君を選出し、京葉支部はまさに新たな時代へ向けて、大きな第一歩を踏み出した。旧役員を代表した深見前支部長の、「今後心ひとつに、物心両面から山田体制を支援していきたい」という言葉を、全員がかみしめつつ、反転攻勢へ、京葉支部がその「牙城を崩す」のだ!との決意をその胸に刻みこんだ。

#### 新役員具体体制

支部長	山田 護
副支部長	伊藤 詔一 桜井 照夫
書記長	野村 康哉
執行委員	中村 康幸 鈴木 雅樹 吉野 道夫 半田 幸夫 徳田 精考 高田 昌史
特別執行委員	